

2020年7月29日

報道機関 各位

「ナガサキ・シナリオプロセス」の実施について（記者会見）

パンデミックによる混乱が、北東アジアでの核危機の悪化、核戦争につながるのをどう防げばいいか。その際の市民社会や自治体の役割は何か。長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）では、被爆75年、そして核不拡散条約（NPT）発効50年の節目の年を迎えるにあたり、米NGOノーチラス研究所、韓国NGOアジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーズネットワーク（APLN）との共催で、この問題を考える国際プロジェクトを実施することにしました。

具体的には、オンラインによるシナリオ・プランニング「ナガサキ・シナリオプロセス：パンデミックと核リスク」を開催します。開催日時は10月31日（土）～11月1日（日）に第1ラウンド、11月14日（土）～11月15日（日）に第2ラウンドを行い、年内には最終報告書を作成する予定です（概要は添付資料参照）。「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル」（PSNA）の主要メンバーを中心に、内外の多様なバックグラウンドを持つ専門家が20～30名ほど参加する予定です。

シナリオ・プランニングとは、将来起こりうる重要で不確実な環境変化を想定し、どのような未来があり得るかについて議論を重ねて、複数のシナリオを作成するプログラムです。パンデミックと核リスクの接点に焦点を当て、北東アジアの非核化プロセスにとっての示唆を得ることが大きな目的です。この複数のシナリオとその示唆に基づき、PSNA共同議長が提言をまとめる予定です。

この国際プロジェクトにつきまして、以下のとおりブリーフィングを行います。

ご多忙中誠に恐れ入りますが、ご出席賜りますようお願いいたします。

記

■日 時：2020年7月31日（金）11：00～12：00

■場 所：長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）1階会議室

■報告者：吉田 文彦 核兵器廃絶研究センター センター長
鈴木 達治郎 核兵器廃絶研究センター 副センター長

【本リリースに関するお問い合わせ先】

核兵器廃絶研究センター事務室 TEL 095-819-2164 / FAX 095-819-2165
E-mail recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

(添付資料)

被爆 75 年記念事業「ナガサキ・シナリオプロセス：パンデミックと核リスク」

(概要)

(目的) 本プロジェクトは、もともと PSNA(北東アジアの平和と安全保障に関するパネル)のワークショップテーマとして構想されました。しかし、コロナ感染症の影響で長崎での開催は中止することになりました。ご存知のように、2020 年をむかえて、核を取り巻く情勢は大変厳しい状況になっています。米科学誌の「終末時計」は戦後最悪の「100 秒前」となり、朝鮮半島情勢も、2018 年以降は交渉が進まず、極めて不透明な状況になっています。そのような背景の中で、新型コロナウイルス・パンデミックが発生し、国際情勢は大きく揺らぎ、核軍縮関連のすべての国際会議や交渉が中止・延期となりました。そういった背景のなか、**PSNA として、パンデミック後の国際社会がどう変化していくのか。そして、それが核問題にどのような影響を与えるのか。そして朝鮮半島の非核化と北東アジア情勢にどう対処すべきなのか。**これらに答えるためのヒントをこのシナリオ・プランニングプロセスから得たい、というのが本計画の主目的です。今回のシナリオ・プロセスでは、特に長崎からの発信を重視し、また市民社会の役割について焦点を当てていく予定です。

(計画概要)

日時：2020 年 10 月 31 日 (土) 9:00~13:00 11 月 1 日 (日) 9:30~13:00 (第 1 ラウンド)

2020 年 11 月 14 日 (土) 9:00~13:00 11 月 15 日 (日) 9:30~13:00 (第 2 ラウンド)

(注：日時はすべて日本時間)

会場：オンライン (zoom)。シナリオ・プロセスはすべて非公開で行われます。

主催：RECNA、米 NGO ノーチラス研究所(Nautilus Institute)、APLN (Asia Pacific Leaders Network for Non-proliferation and Disarmament)

協力：PSNA、長崎大学「プラネタリー・ヘルス」プログラム、長崎大学熱帯医学研究所、同多文化社会学部、同研究科

体制：シナリオ・プランニングには、「ファシリテーター」を中心とする専門家チームが必要であり、本ワークショップでは、さらに「オン・ライン」で行うシナリオ・プランニングの経験者が必要となる。本プロジェクトでは、ノーチラス研究所を中心に、海外で経験豊かなファシリテーター4名に委託。国際的にも通用するスタッフ体制を確立した。

成果：

1. 2020 年 9 月：「ワーキングペーパー」—パンデミックと核リスクに関する重要課題 (約 10 本) について、著名な専門家に執筆を依頼。シナリオ会合の前に参加者に配布するとともに、ウェブで公開する。
2. 2020 年 12 月：「最終報告書」—シナリオ・プランニングによって想定された複数のシナリオとその示唆を最終報告書として 2020 年末に日英両文で発表 (2020 年 12 月)。
3. 2021 年 2 月：「PSNA 共同議長による政策提言」—この複数のシナリオとその示唆に基づき、PSNA 共同議長が北東アジアの非核化にむけての提言を発表。

主な参加者（予定）

シナリオ・プランニングチーム

ピーター・ヘイズ博士、スティーブ・フリードキン博士（ノーチラス研究所）

ダグ・ランダー（メインファシリテーター）、ユイ・キーホ教授（韓信大学）

この他ファシリテーター2名が参加予定

アドバイザー：角和昌浩 東大客員教授、元シェル石油チーフエコノミスト

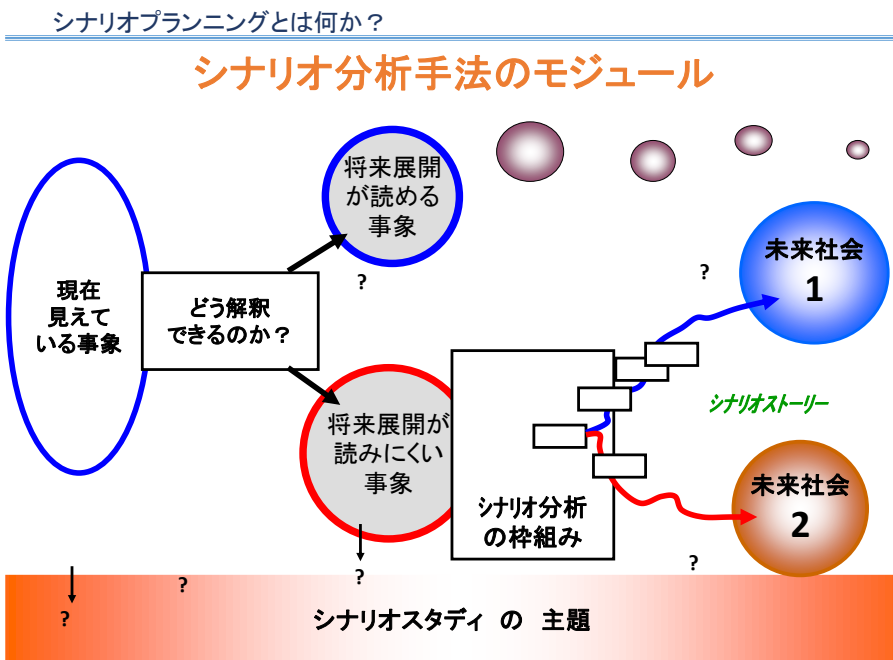
日本参加者：（予定）

梅林 宏道	ピースデポ名誉顧問、長崎大学 RECNA 客員教授
小溝 康義	元平和首長会議事務総長・広島平和文化センター理事長
郷 富佐子	朝日新聞論説委員
猿田 佐世	新外交イニシャティブ 事務局長
高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授
朝長 万左男	長崎大学 RECNA 客員教授、PSNA 共同議長
毛利 勝彦	国際基督教大学教授
門司 和彦	長崎大学多文化社会学部長・教授、熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授
ラドミール・コンペル	長崎大学多文化社会学部教授
グレゴリー・カラーキー	憂慮する科学者同盟（Union of Concerned Scientists）主任研究員、 RECNA 外国人客員研究員
山口 昇	国際大学副学長
中島 大樹	長崎大学多文化社会学研究科 修士課程（ナガサキ・ユース代表団 OB）
光岡 華子	長崎大学多文化社会学研究科 修士課程（ナガサキ・ユース代表団 OG）

海外参加者（交渉中）約 20 名

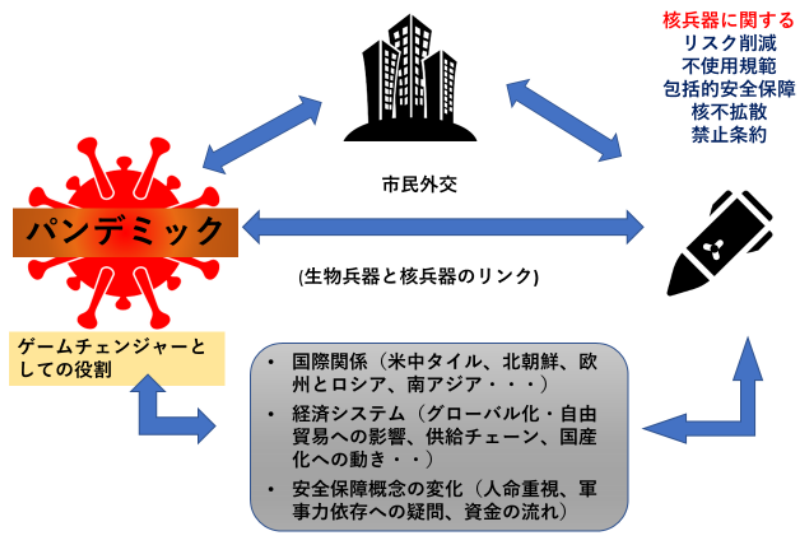
韓国、中国、米国、オーストラリア、香港、モンゴルなど、地域・専門・年齢・ジェンダーの多様性を考慮して、20名ほどが参加する予定。

図ー1 シナリオ・プランニングとは何か



出所：角和昌浩、「シナリオプランニング：パンデミック時代の核問題と市民社会の役割」、2020年5月19日。

図ー2 パンデミックと核リスクの概念図



カギになる質問：

What are the opportunities driven by global pandemics for Northeast Asian governments, civil society, and market actors to reduce nuclear risk and resume nuclear disarmament?

核兵器のリスク削減や核軍縮を進めるために、北東アジアにおける政府、市民社会、市場参加者にとって、地球規模のパンデミックはどのような機会を与えるか？